

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年11月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4070801875		
法人名	有限会社 涼風		
事業所名	グループホーム ウイング		
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市東区原田4丁目16-1 (電話) 092-629-5100		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡県福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成19年10月23日	評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】(19年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 新築 / 改築 <input checked="" type="checkbox"/>
建物構造	鉄骨造り	
	3階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37000 ~ 50000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		1200 円	

(4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 78.5 歳	最低	62 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ももち浜クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営者は実母の老後を考え、地域で安心して暮らせるようにしたいという思いから、ホームを開設した。職員は「心やさしく、おだやかに、のんびりと自分らしく」という理念を利用者とともに共有し、一人ひとりのペースを大切にしながら、力の発揮ができるよう支援している。また、2ヶ月1回の家族への状況報告をとって作られている「ウイング翼だより」には写真がふんだんに掲載され、手に取るように利用者の普段の生活ぶりを見ることができる。経営者の手作りのウッドデッキやベンチなどに囲まれたり、玄関先には草花が植えられたり、家庭的な温かい雰囲気のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題として、運営理念の明示と浸透・啓発、個別具体的な介護計画の作成、非常災害対策、相談苦情窓口の明示など、多くの課題が挙げられていたが、職員全体で改善にむけ積極的に取り組み、ほぼ全ての項目で改善が確認されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員一人ひとりが自己評価を行ったものを管理者が取りまとめて記入している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年10月に第1回目の運営推進会議が開催され、民生委員や地域包括支援センター職員、利用者と家族等が参加し、現在のホームの利用状況、活動状況報告や、運営推進会議の目的等について話し合っている。しかし、まだ1度目の開催であり、今後の定期開催とサービス向上に向けた意見交換など会議を活かした取り組みが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の面会時は必ず声をかけ、利用者の暮らしぶりを話すとともに、家族の意見を聞く場としている。介護計画を立て直す際にも必ず家族へ電話連絡し、意見交換を行っている。苦情相談窓口は、ホーム内部・外部の受付窓口をホーム入口に明示し、意見箱も設けられているが、今のところ特に苦情は寄せられていない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	年に一度、ホーム主催で夏祭りを開催し地域の人々を招待してホームの存在のアピールと地域の人々とのふれあいの場としている。ホームから地域のために、清掃活動などできないことがないか働きかけるなど、積極的に交流に努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	利用者の尊厳を守り、家族や地域とのふれあいを大切にしながら、安心・安全に暮らすことを基本方針とし、「心優しく、おだやかに、のんびりと、自分らしく」というホーム独自の理念をつくっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、職員だけでなく利用者も一緒に唱和し、理念を共有することで、ホーム全体で理念の実践に向けて気持ちを一つにしている。また職員は利用者の問題行動など、困難な場面に直面したときは理念を思い出し、おだやかな気持ちで対応するよう努めている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に一度、ホーム主催で夏祭りを開催し地域の人々を招待してホームの存在のアピールと、地域の人々とのふれあいの場としている。ホームから地域のために、清掃活動などできることがないか働きかけるなど、積極的に交流に努めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価をうけ、職員全体で改善に向けて話し合い、具体的に取り組むことでかなりの改善が確認されている。今回の自己評価は職員一人ひとりが自己評価を行い、管理者が取りまとめて記入している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年10月に第1回目の運営推進会議が開催され、民生委員や地域包括支援センター職員、利用者と家族等が参加し、現在のホームの利用状況、活動状況報告や、運営推進会議の目的等について話し合っている。		まだ1度目の開催であり、今後の定期開催と、サービス向上に向けた意見交換とその具体的な活用が期待される。

グループホーム ウイング

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課の担当者に何か困ったらすぐに電話で相談し、一緒に解決を図っており、連携はとれている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護のに関する研修を受け学んでおり、それを職員にも伝えている。		内部研修で職員の制度の理解を深めるとともに、パンフレットを常備し、利用者や家族から求められれば誰でも説明でき、関係機関への橋渡しができるようにしておくことが望ましい。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭出納帳は月に1度家族に確認してもらい、サインを頂いている。2ヶ月に1度のホームだよりに、毎月の請求書に担当者が利用者の暮らしぶりについて必ず報告を添えて送付している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は必ず声をかけ、利用者の暮らしぶりを話すとともに、家族の意見を聞く場としている。苦情相談窓口は、ホーム内部・外部の受付窓口をホーム入口に明示し、意見箱も設けられている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は頻りに各ユニットを行き来し、利用者全員と顔なじみの関係であり、職員の離職によるダメージは最小限に抑えられている。		

グループホーム ウイング

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>面接は管理者が行い、性別や年齢ではなく、その人の素直さなど人格を重視して採用を決定している。職員は、園芸や料理、飾り付けなどそれぞれの得意分野を活かして、生き生きと勤務している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は人権に関する外部研修を受け、その内容を職員に報告しているが、別の機会に内部研修は行っていない。</p>		<p>人権に関する内部研修は繰り返し行い、全員で認識を同じくし、人権尊重の徹底を図ることが望ましい。</p>
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は研修の案内があれば職員へ紹介し、希望や段階に応じて、勤務の一部として研修の受講ができるよう調整を行っている。研修後は月1回の会議で内容を発表してもらい、知識の共有を図っている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に所属し、月1回の研修会で他の事業所の職員とも交流があり、職員同士も意見や情報の交換が行われている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス開始前は、施設の見学、説明、状況に応じて自宅訪問を行い、面談することで利用者が徐々にホームに馴染めるよう工夫している。</p>		

グループホーム ウイング

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者ど過ごす中で、料理や洗濯等に関して生活の知恵を学んだり喜怒哀楽を共にして、支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>会話の中で得られた利用者の思いや希望はそのままの言葉で記録に残し、申し送るとともに、月1回のミーティングの際に検討している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月に1度のモニタリングと、状態変化があればその都度見直しを行っているが、その際には家族にも電話連絡し、意見を聞いたり新たな介護計画に目を通してもらい、同意を頂いている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日、計画が実践できたかをチェックリストで振り返り、できないことが多かった項目については月に1度、なぜできなかったのか、今後の対応なども見直している。モニタリングは3ヶ月に1度、状態変化があればその都度見直しを行っている。</p>		

グループホーム ウイング

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が24時間体制で急病にも対応しており、2週間に1回の往診も受けている。週に1度の歯科往診も行われており、十分な医療が受けられている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでにホーム内で重度化や終末期を迎えた利用者はおられなかった為、明確な方針は決められていない。		来年度に訪問看護ステーションと連携をおこなう予定である。家族、かかりつけ医と連携を図りながら、重度化や終末期に向けた方針を明確にして取り組んでいくことが期待される。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録ファイルはキャスター付きの棚に保管し、常に職員の目の届く場所に置き、個人情報の取り扱いに注意を払っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間で区切らずに一人ひとりの状態や希望に配慮し、その日、その時の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を行っている。		

グループホーム ウイング

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況や好みに応じて食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。また職員も利用者と一緒に同じ食事を楽しみながら、利用者の見守りや介助を行っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援している	ユニット毎に入浴日、時間の設定はあるが、希望があればその都度変更でき、一人ひとりのタイミングに合わせて入浴が楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備の手伝いや、洗濯物干し、花の水やり等、生活歴や好みを活かして利用者が積極的に力を発揮できるよう支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年に1度は野球観戦など遠くへ出かけ、日常的には利用者の希望に応じて近くの公園に散歩に出かけたり買い物など、戸外に出られるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階、2階ともに日中は出入口に鍵をかけず開放しており、利用者も家族も自由に出入りが可能である。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け、利用者やホーム3階に住む経営者とその家族も参加し、年に2回、消防避難訓練を実施している。日勤中の想定で実施のみである。		職員のみでの対応だけでは限界があることを認識し、普段より地域に協力を依頼したり、夜勤を想定しての避難訓練を実施して夜勤中の問題点を明らかにし、対策をとることが望ましい。

グループホーム ウイング

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は食品会社の管理栄養師が立てたものを活用し、職員が利用者一人ひとりの状態に合わせて食べやすいよう調理している。摂取量はかならずチェックし記録に残している。水分は食事以外でも10時と15時のおやつの時や、就寝前もペットボトルで渡し、十分に水分摂取できるよう支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく静かで、季節感のある花や飾りを取り入れ、ゆったりとくつろげるソファや、ウッドデッキのベンチなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は利用者の持ち込みの使い慣れたものを使用し、使いやすい位置に配置して、居心地良く過ごせるよう工夫している。		